

令和7年度新宿区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

活動テーマ
「科学」

早稲田南町保育園
東京都新宿区早稲田南町50番

テーマ設定理由

子どもが科学的な現象にどのように興味・関心を示すのか、どのように表現したり言葉にしたりするのか、そこからどのような遊びに発展させていくことができるのかを観察しながら科学的な思考の芽生えを育てていきたい。

活動スケジュール

令和7年5月28日 「空気のかたまりを発射！（空気砲）」
令和7年7月10日 「引き合う、離れる 磁石パワー！（磁力）」
令和7年10月1日 「いろいろな音を出してあそぼう（音）」
令和7年12月24日 「みんなの目はふしぎ（錯視）」
令和8年1月21日 「くつつくもの くつつかないもの（磁力・大気圧）」
令和8年2月18日 「色のふしぎをたのしもう（立体視・補色）」

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動内容に合わせて、段ボールや黒ビニールシート、磁石、紙コップ、タコ糸、画用紙、サインペン、クレヨン、セロテープ、のり等の素材や道具を準備しました。また子ども達一人一人が観察や実験がしやすいように、テーブル数を増やすなどして作業する広さを確保し、一人一人が伸び伸びと活動できるスペースを確保しました。



探究活動の実践 活動の内容

「空気のかたまりを発射！（空気砲）」

段ボール箱の空気砲で黒いビニールに空気のかたまりを打ち込んだり、出てくる空気を煙で見えるようにして観察しました。

「引き合う、離れる！ 磁石パワー（磁力）」

実験を通して、磁石にはくっつく面とくっつかない面があり、引き付け合ったり、退け合ったりすることを知りました。

「いろいろな音を出してあそぼう（音）」

タコ糸や紙コップ、ドレーンホースを使って、色々な音の不思議を感じました。音が出ているときは物が震えていることを体感しました。

「みんなの目はふしぎ（錯視）」

色や大きさ、傾きのイラストを見て、色々な種類の目の不思議を感じました。ソーマトロップ作りをして実験もしました。

「くっつくもの くっつかないもの（磁力・大気圧）」

磁石、面ファスナー、吸盤などの便利な「くっつくもの」がどんなどころに付くのか、または付かないかを探す実験をしました。

「色のふしぎをたのしもう（立体視・補色）」

赤いセロハンを通して物をを見た時に、何が起こり、なぜそうなるかを実験で確かめました。とびだすメガネで立体視を体験し、自分でも飛び出す絵を描きました。

活動中の子供の声、子供同士や保育者との関わり

各回の活動を通して、子ども達は身近な現象への興味を広げ、自ら予想し確かめる姿が多く見られました。磁石や音、色、空気、くっつく仕組みなどに触れる中で、「どうして？」「こうするとどうなる？」といった問いや気づきを言葉にし、友達同士で考えを伝え合う様子も見られ、共有する喜びが育まれていきました。保育者は子どもの発見を受け止め、試行錯誤を支える関わりを行うことで、主体的に探究する姿を引き出していきました。子ども達と驚きや喜びを共有することで、さらに知ることの楽しさを味わうことができました。

振り返りによって得た先生の気づき

活動を重ねる中で、子ども達は見通しをもって実験に取り組み、予想を立てたり自分の言葉で考えを表現したりする子が多くみられました。また、これまで発言の少なかった子も主体的にかかわるようになり、経験の積み重ねが意欲の向上につながっているようでした。活動中での視覚や触覚、聴覚を通じた体験により、現象の仕組みを自分なりに理解しようとする姿や既存の知識や生活体験と結び付けて考える様子も見られました。さらに活動後も遊びとして発展させたり自ら工夫し試行錯誤する姿から探求心や創造性の育ちが感じられました。



令和7年度とうきょうすくわくプログラム (早稲田南町保育園)



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん